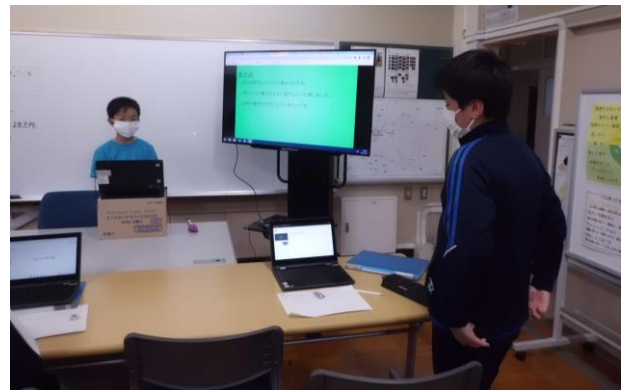


1 学 年 第3・4・5・6学年

2 実践内容

複式授業・合同授業において、発達段階や経験値が違う異学年の児童が主体的に学びたくなり、教師が分かりやすく指導できる方法（ICTを活用した効果的な学習支援）について研修したいと思い、1学期の実践を行ってきた。

本校では、3～6年生が合同で総合的な学習の時間の授業を行っている。3・4年担任と5・6年担任の2人体制で指導にあたっている。1学期は、「くま(熊)昔と今 未来に伝えるもの」をテーマに追究し、まとめて発表する活動を行った。同じことに関心をもった子供同士が集まってグループを組むのではなく、個々にテーマを決め、個人で調べてまとめていく形で活動を進めた。総合的な学習の時間が初めての3年生にとっては、追究するときの検索の仕方や、タブレットを使ってスライドにまとめていく方法など、何をどうしていったらよいか分からないことだらけであったが、高学年が学習している様子を見て同じようにやってみたり、困っていると自然に高学年が助けたりする姿が見られた。また、グーグルクラスルームを介して、提出されたスライドを見て参考にし合ったり、振り返りシートを提出して進捗状況を確認し合ったりした。



3 成果と課題

発達段階や経験値が違う子供たちが合同で学習する場面では、活動に掛かる時間や内容の理解度などに差があり学習の進めにくさを感じることも多いが、3～6年生4学年合同の総合的な学習の時間の授業では、力の差が学び合いにつながった。下学年の児童が支援を受けられる良さがあるのはもちろんのこと、上学年の児童も教えることでICT機器の使い方に自信をもったり、自分が調べている内容以外のことまで関心や理解が広がったりする良さがあった。TT態勢で指導ができることで、ICTの活用が不得手な自分が様々な活用の仕方を学ぶ機会にもなった。

下学年が上学年に、T2がT1に頼りすぎてしまって主体的な学びに支障が出ないようにしたり、学び合うことでお互いの活動時間の妨げにならないようにしたりする工夫をしていく必要がある。